

次号
特集感染症
3悩ましい検査
やっかいな病態

本誌の特集で感染症の話題を扱うのは、2013年、2017年に引き続き今回で3回目です。1回目の特集では、感染症診療の総論から臓器システム別に代表的な感染症が扱われ、2回目の特集では、トラベル・AMR・免疫不全といったトピックに加え、1回目に扱われなかった複数の病態、疾患にフォーカスが当てられました。

今回の特集では、これらとの内容的重複を極力避けながら、日常臨床での遭遇頻度が高く、かつ総合内科医が頭を悩ませそうなクリニカルクエスチョンを念頭に章立てを行う、プロブレムベースの構成をとっています。

病態編（シナリオ別、症候パターン別）、微生物編（主に血液培養陽性に対する対応）、薬剤編、感染管理編に分け、全体のバランスをとりながら、エビデンス、各種ガイドラインに基づいた記載を軸に、普段行っている日常臨床の科学的根拠を掘り下げ、主なターゲットであるホスピタリストを志す若手医師が、明日からの診療に応用できる特集を目指しています。

Part 1 病態編① シナリオ別に考える発熱
患者・感染症への対応

1. 抗菌薬が効いていない!? 3つの軸で整理する
2. 術後患者の発熱
3. 悪性腫瘍と発熱：複雑化する担がん患者対応のアップデート
4. 化学療法中の患者の感染症予防
5. 顆粒球減少患者の発熱

Part 2 病態編② パターン認識でとらえる
発熱・感染症

6. 中枢神経症状と発熱
7. 関節炎と発熱
8. リンパ節腫脹と発熱
9. 肝機能障害・黄疸と発熱
10. 陰嚢痛と発熱、尿道炎から尿路抗酸菌症

Part 3 微生物編

11. 血液培養からグラム陽性菌、あなたならどうする
12. 血液培養からグラム陰性菌、真菌、あなたならどうする
13. いまさら聞けない血液培養の疑問

Part 4 薬剤編

14. 内科医が知っておきたい抗菌薬・抗真菌薬の副作用、薬物相互作用、TDM
15. 新しいグラム陰性桿菌用の薬剤を整理する
16. “Pros and Cons” エビデンスに基づいて長期抗菌薬投与が必要な病態の経口薬スイッチの妥当性を検討する

Part 5 検査編

17. グラム染色の実際
18. Rapid diagnostic testを理解する
19. この感染症検査の解釈、正しくできていますか
20. このバイオマーカーの解釈、正しくできていますか

Part 6 感染管理編

21. SSI予防のエビデンス
22. 経路別予防策のエビデンス
23. カテーテル関連血流感染症予防のエビデンス

Part 7 キャリア編

24. 日本で感染症医として活躍するには

※誌面の都合により、内容が変わることがあります。

■ Vol.1 (2013年)

- No.1 ホスピタリスト宣言
- No.2 感染症

■ Vol.2 (2014年)

- No.1 腎疾患
- No.2 膠原病
- No.3 消化管疾患
- No.4 緩和ケア

■ Vol.3 (2015年)

- No.1 呼吸器疾患1
- No.2 外来における予防医療
- No.3 循環器疾患1
- No.4 血液疾患

■ Vol.4 (2016年)

- No.1 代謝内分泌
- No.2 周術期マネジメント
- No.3 腫瘍
- No.4 他科の知識1

■ Vol.5 (2017年)

- No.1 神経内科
- No.2 呼吸器疾患2
- No.3 感染症2
- No.4 老年科

■ Vol.6 (2018年)

- No.1 腎疾患2

No.2 糖尿病

- No.3 肝臓病
- No.4 心不全

■ Vol.7 (2019年)

- No.1 外来マネジメント
- No.2 総合内科のための集中治療
- No.3 抗血小板薬、抗凝固薬のすべて
- No.4 内科エマージェンシー

■ Vol.8 (2020年)

- No.1 アレルギー
- No.2 画像診断①胸部・縦隔編
- No.3 手技
- No.4 病棟管理

■ Vol.9 (2021年)

- No.1 膠原病2
- No.2 内分泌疾患2
- No.3 不整脈1
- No.4 不整脈2

■ Vol.10 (2022年)

- No.1 身体診察
- No.2 脳梗塞
- No.3 画像診断②脳脊髄編
- No.4 感染症3

■ Vol.11 (2023年)

- No.1 総合内科のための透析診療

趣味で撮った動画の編集にトライしてみました。スマートフォンで体感的に操作でき、気ままにやってもそれなりの見た目に仕上がるアプリの性能に、今さらながら驚かされます。今回の連載にある練馬光が丘病院のバーチャル病棟のような技術が、実験的に医療にも活かされ、ある程度一般利用レベルにまで広がりつつあることを知りました。日進月歩の技術は、ある日、勝手に向こうからやってくる気さえます。大いに期待する気持ちがある一方、自分のスマホ画面の先で起こっていることは想像を超え、少しばかり不安になってしまいうこともあります。もう一方の織田病院の、地域とともに歩む「医療DX」の道のりにも別の感銘を受けました。ご高齢の方にとっては「タッチパネル」より、「慣れ親しんでいる自宅のテレビ」でのビデオ通話、というのに、響くものがありました。さて、「ふな釣り」から「AI」まで、画像診断の世界にどっぷり浸れる1冊をお楽しみください。

● 広告一覧 医学書院…528, 529
金原出版…412
日本医事新報社…421

発行者 金子 浩平

発行所 株式会社 メディカル・サイエンス・インターナショナル
〒113-0033 東京都文京区本郷1-28-36
電話：編集部 03-5804-6056 FAX：編集部 03-5804-6054
販売部 03-5804-6051 販売部 03-5804-6055
URL：http://www.medsico.jp Eメール：hospitalist@medsico.jp
振替：東京 7-28572

印刷所 横山印刷株式会社 電話03-3622-6161

広告取扱 メディカルブレーション 電話03-3814-5980

文京メディカル 電話03-3817-8036

福田商店広告部 電話06-6231-2773

本誌の複製権・翻訳権・上映権・譲渡権・公衆送信権（送信可能化権を含む）は（株）メディカル・サイエンス・インターナショナルが保有します。本書を無断で複製する行為（複写、スキャン、デジタルデータ化など）は、「私的使用のための複製」など著作権法上の限られた例外を除き禁じられています。大学、病院、診療所、企業などにおいて、業務上使用する目的（診療、研究活動を含む）で上記の行為を行うことは、その使用範囲が内部的であっても、私的使用には該当せず、違法です。また私的使用に該当する場合であっても、代行業者等の第三者に依頼して上記の行為を行うことは違法となります。

【JCOPY】＜出版者著作権管理機構 委託出版物＞本書の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。複製される場合は、そのつど事前に出版者著作権管理機構（電話 03-5244-5088、FAX 03-5244-5089、info@jcopy.or.jp）の許諾を得てください。